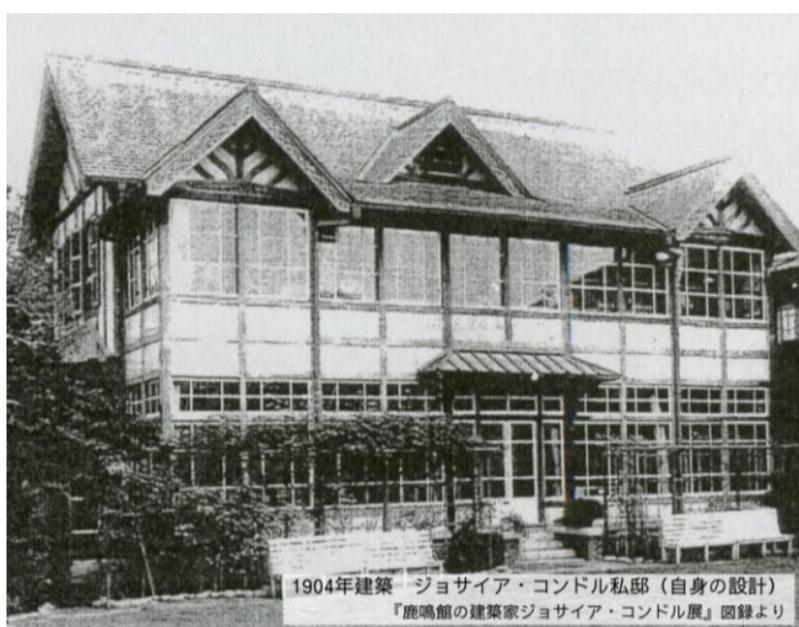




史料室だより

清泉女子大学史料室 Seisen University Archives

No.5 お隣のコンドルさん



1935(昭和 10)年に清泉女子大学のルーツである「清泉寮」が旧志賀直温（志賀直哉の父）邸に開学したことを今年8月の「史料室だより～志賀直哉と清泉寮～」で触れましたが、旧志賀直温（志賀直哉の父）邸にまつわるもう一つのエピソードをご紹介します。

志賀直哉は著作『大津順吉・和解・ある男、その姉の死』（岩波書店、1978(昭和 53)年)の中で、次のように記しています。

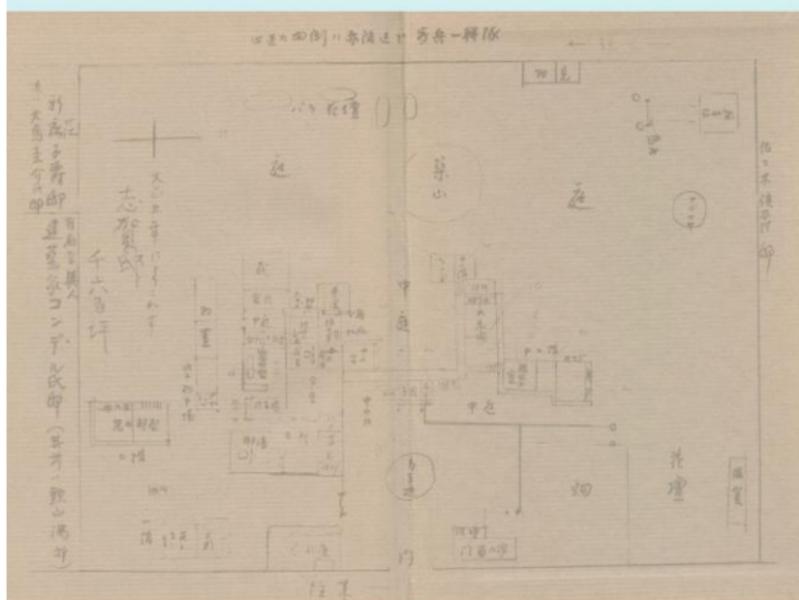
「ある午後私はひとりそういう心持ちで二階の部屋に寝ころんでいると、隣の西洋人の家の芝庭でおうむがけたたましく地声で鳴き立て始めた。私はおうむが薄黒い丸い舌を見せて、羽ばたきをして、頭を振り立てながら、わめき立てるそのやけらしい様子を思い浮べると、人間にもあんなまねができたなら、こんな時にはいくらかいいだろうというような事を考えた。おうむはなかなかそれをやめなかった。しまいにはこっちの気分までがだんだんいらだって来る。

しばらくすると、言葉はそれほどはっきりしないが、アクセントだけは正確に、「前へ！オイッ」とか「気をつけ……」とかいろいろな号令をたて続けに叫びだした。私の家の裏が師団の一連隊*で、西洋人の家のむこう隣りが旅団司令部になっている。それで自然そんな事を覚えているのである。」

*師団の一連隊：1936(昭和11)年の2・26事件に関与した歩兵第一連隊のこと

この「隣の西洋人」がジョサイア・コンドルで、当時は「コンダー」とか「コンデル」などと呼ばれていたようです。志賀直哉がこの屋敷に住んでいた頃、隣家の洋館には清泉女子大学本館の設計者であるジョサイア・コンドルが住んでおり、志賀直哉の妹の英子(ふさこ)さんが記憶から書き起こした志賀邸の見取図の左端に「有名な英人建築家コンデル氏邸」の記載が確認できます。

志賀直哉の異母妹英子が記憶して描いた
麻布三河台27番地の志賀直哉邸見取図



『新潮日本文学アルバム 志賀直哉』より

ジョサイア・コンドルは1920(大正9)年に没しており、本学の設立母体の聖心侍女修道会のシスターズがローマより来日したのは1934(昭和9)年ですから、シスターズがジョサイア・コンドルに直接会うことはありませんでしたが、後に彼の設計した旧島津家本邸に清泉女子大学が移転したことを皆さんはどのように思われるでしょうか。

「史料室だより」は清泉女子大学公式インスタグラムにて連載中です。